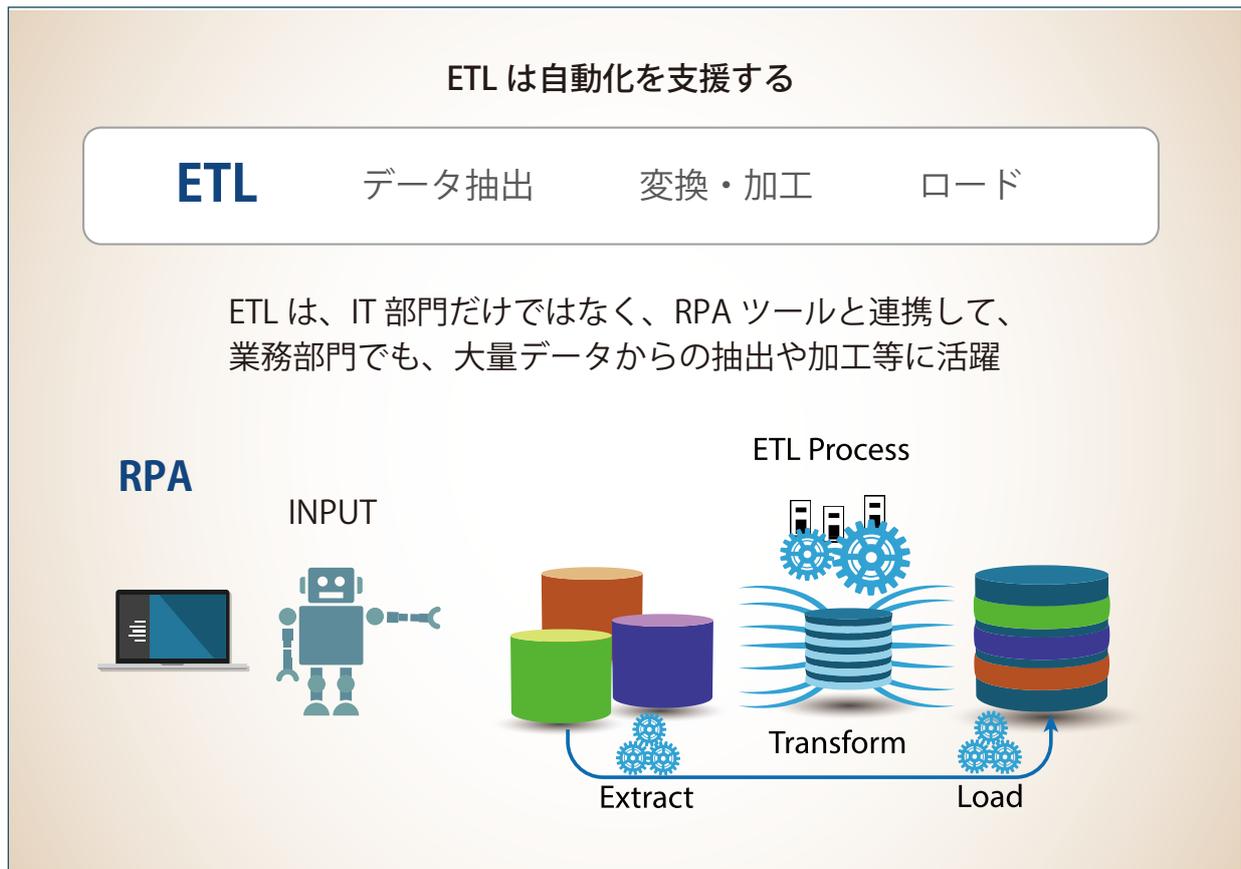


# ETL ツールはなぜ RPA に有効なのか？



RPA を推進する多くの場面で、近年特に ETL ツールが活躍し始めています。

ETL ツールは、

- Extract   ： データを抽出する
- Transform   ： データを変換、加工する
- Load       ： データをロードする

の頭文字をとった言葉で、主にはデータウェアハウスへ、格納したいデータを抽出したり、加工やロードをする時にノンプログラミングで使用できるツールを指します。

よって、データのソート等のバッチ処理の前に対象データを抽出する場合や、あるいは項目のフォーマット統一のために加工したり、処理したものをデータベースへロードしたりするときのユーティリティとして、多くの企業のデータ編集プログラム処理の一環として使用されています。そのため、企業の IT 部門では、このツールの便利さをよく理解されており、馴染み深いツールの一つとなっています。

ノンプログラミングが基本なので、プログラム開発したアプリケーションより、比較的簡単な指定方法で変更や拡張が楽に行えるため、開発時間が短縮されメンテナンス性に優れています。

RPA ツールの多くもノンプログラミングが基本ですが、主たる目的が PC 操作の自動化に機能が集中しているため、データの加工や抽出は、通常スクリプトを組む方法で対応しています。

RPA の対象業務として多いバックオフィス系の事務作業は、ほとんどがエクセル内でのデータ加工等で行なわれているために、ETL ツールの存在も、必要性さえも認識していない業務担当者が多いです。

しかしながら、実際には RPA が活躍すべき業務には様々なデータが存在し、たとえば、ETL ツールが活躍する住所データの整形や名寄せ作業等も、いろいろな修正パターンがあるため人が行なわないと無理だという認識が業務部門では当たり前になっています。

ETL ツールには、データハウスでビックデータを扱うような大規模なケースでなくても、比較的低価格で手軽に導入できるものもあるため、RPA のソフトウェアロボットと連携することで自動化の実現を支援することができます。